

令和4年度 第1回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会会議録（概要）

- 日 時 令和4年7月15日（金）午前10時から午前11時50分
- 会 場 鶴岡市総合保健福祉センター にこ♥ふる 3階 大会議室
- 次 第 （1）「いきいき健康つるおか21保健行動計画」の概要と進捗状況について
（2）健康課事業令和3年度の実施状況と4年度の取組みについて
（3）「いきいき健康つるおか21保健行動計画」の計画期間延長について
- 出席委員
鈴木千晴、高橋実沙希、蘆野吉和、梅津彰紘、七森玲子、藍陽子、秋山美紀、千田洋子、佐藤まさ子、齋藤邦夫、佐藤しおり、庄司弘子、長谷川清、脇山拓
- 欠席委員
福原晶子、毛呂光一、伊藤真司
- アドバイザー 慶應義塾大学 武林亨
- 市側出席職員
健康福祉部長 渡邊健、健康課主幹 菅原青、藤島庁舎市民福祉課長 長谷川郁子、羽黒庁舎市民福祉課長 成沢結花、櫛引庁舎市民福祉課長 佐藤栄一、朝日庁舎市民福祉課長 佐藤智井、温海庁舎市民福祉課長 加藤早苗、健康課長補佐 齋藤啓、健康課長補佐 鈴木美幸、健康課母子保健主査 佐藤まゆみ、同課母子保健主査 伊藤佳奈子、同課成人保健主査 武田幸士、同課成人保健専門員 佐藤剛、同課高齢保健主査 五十嵐信子、同課高齢保健主査 佐藤恵美子、同課保健総務主査 吉野崇子
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者 なし
- 1. 開 会（事務局）

本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。ご案内の時刻となりましたので、只今より、令和4年度第1回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会を開催いたします。

はじめに渡邊健康福祉部長がごあいさつ申し上げます。
- 2. あいさつ（健康福祉部長）

皆様おはようございます。本日は皆様お忙しい中、この場にご出席いただきまして誠にありがとうございます。アドバイザーをお願いしておりました武林先生からは、本日東京からご出席をいただいております。本当にありがとうございます。

また皆様には、日頃より本市の保健行政につきまして、格別のご指導・ご協力いただいておりますこと、重ねて御礼申し上げます。

本協議会は、市民一人ひとりが生き生きと健やかに暮らす健康福祉社会を目指しまして、こころと身体健康増進を図るため、健康増進法に基づいて設置されております。これまで委員の皆様からご意見をいただきながら、市の各種健康施策の実施についてご意見を頂戴しております。

今年度は2年に一度の委員の改選の年にあたり、新たに7名の方に委員に加わっていただいたところでございます。継続して委員にご就任いただいた皆様も含め、快くお引受けいただきまして心より感謝申し上げます。武林先生には、また、アドバイザーとしてご指導いただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、健康課で実施しております事業や、『いきいき健康つるおか21 保健行動計画』の進捗状況についてご説明申し上げます。委員の皆様方には忌憚のないご意見を頂戴したいと存じます。

特に今年度は、10月の「健康づくり強調月間」におきまして、10月1日にオープニングイベントの開催を予定しております。昨年度はコロナ禍の影響もあり規模を縮小し、にこふる館内の展示とクイズの実施となっておりますが、今回は、市民の皆様へ会場へ足を運んでいただけるよう、準備を進めて参ります。皆様からもご参加いただきますよう、この場をお借りしましてお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3. 委嘱状交付

4. 委員紹介（健康課主幹）

5. 役員選出

○事務局：

鶴岡市健康なまちづくり推進協議会設置要綱第5条第1項の規定により、会長、副会長は委員の互選より定める、となっておりますが、いかがいたしましょうか。

- ・委員から発言なし、事務局より会長に千田洋子委員、副会長に佐藤しおり委員を提案
- ・全会一致で選出

6. 会長あいさつ

（会長あいさつ）

皆様おはようございます。初めての大役で、慣れていないので突っ走ったりするかもしれませんが、どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

（副会長あいさつ）

おはようございます。大役を仰せつかりまして恐縮しております。フィットネス協会のメンバーとして、日頃皆さんの健康づくりの運動のお手伝いをさせていただいております。しゃべったりまとめたりするよりも動く方が得意なので、運動のところで力を発揮させていた

だきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局：

ここからは、設置要綱第6条の規定によりまして、会長に議長をお願いしたいと思いません。よろしくお願いいたします。

7. 説明・意見交換

(1) 「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」の概要と進捗状況について

－事務局説明－

① 「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」と健康課事業 資料1

② 「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」の進捗状況 資料3

(2) 健康課事業令和3年度の実施状況と4年度の実施について 資料2

－事務局説明－

○委員：

特定健診・特定保健指導事業の特定保健指導利用者のうち、積極的支援と動機付け支援はどのように分けて支援しているのか。

○事務局：

高齢者については積極的支援を行わず、動機付け支援を行うこと、と定められています。また、腹囲又はBMIの基準値以上の方に加え、血圧、コレステロール、血糖値の規定値以上の項目が多い方については積極的支援を行い、関わっている状況です。

○委員：

自殺対策の部分で、今年度のこころ元気アップセミナーのオンライン定員が30名となっているが、30名の上限というのは何か色々制約があってそうなっているのか、というのが1点、もう1点は、LINEを活用した相談先等の周知啓発とはどのような事をするのか、お聞きしたい。

○事務局：

1つ目のオンライン定員の上限についてですが、対応可能な範囲として、この上限を設定しています。もう1点のLINEを活用した相談先等の周知啓発については、今年度新たに計画しているところで、課内での練習等を踏みながら、相談窓口や事業の啓発、こころの出前講座等の周知活動をこれから実施していきたいと思っています。

○委員：

対象者に合わせたメディアを使っていただくのは大変良い事だと思います。

(3) 「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」の計画期間延長について 資料4

－事務局説明－

(4) 意見交換

○議長：

今年度委員の皆さんが大分入れ替わったため、委員の皆さんからそれぞれの組織での活動の取り組みや、質問、意見をいただければと思います。

○委員：

保健衛生推進員連合会は26地区学区の団体で構成されているが、私が参加した会議等の資料を皆に配布し、目から入る情報として提供している。健康診断の受診率を見ると増減があり、パーセントというのは凄く気になる。受診率100%とは言わないが、前年度比マイナスになるのは残念なので、プラス0.1%でも、出来ればプラス1.0%まで持っていきたいと思っている。私もそういう団体に参加できて良かったと思うようにしたい。

○委員：

こころ元気アップセミナーのオンラインのところ、私も定員30名はもったいないと思う。セミナーを聞くだけであれば、IDを公開して、沢山の方に聞いていただいた方が良いのではないか。また、LINEに市の情報が届くようになり、市の取組みや施策に触れる機会が増えたと思っているが、それを見ることができない世代に対し、情報を届けられるシステムがあれば良いと思う。不妊治療の助成が手厚くなっていると感じているが、妊娠しやすい体を作るためにはまず自分の体が大事だと思うので、治療というよりも基本的な体力、健康というところに目を向ける機会という意味でも治療のサポートをしている方の効果を上げる側としても、運動などのサポートがあると凄く良いかなと思う。もう少し広く、更年期世代の運動で少し軽減する可能性のある方も取り込んで、女性の体の健康のための運動教室のようなものを皆さんが参加しやすい形で啓発する機会として何回か開催できたら良いのではないか。

○委員：

先日開催された第1回目の自殺対策ネットワーク会議の際に指摘があったこととして、コロナ禍の影響と思われるが、令和2、3年度の自殺者数が増加したという事で、コロナ前に策定した目標との関係で、このままで大丈夫なのかという意見がかなり出され、今後の取組みに関して活発な意見交換がなされた。

○委員：

老人クラブ連合会鶴岡支部では、会員の健康増進と交流を図るため、小真木原アリーナを会場に「輪で話と和を」の心である公式輪投げ大会の開催を予定しており、健康増進の取組みに協力している。

○委員：

すこやかネットでは、令和2年度はコロナの関係で毎年行っていた子育て公開講座を中止し、令和3年度はオンラインによる子育て講演会という事で出羽庄内国際村で開催した。今年度もテレビ等で話題となっているカリスマ保育士のてい先生を講師に予定しており、11月の公開講座で子育て支援の取組みを行う予定。また、令和3年度まで委員だった荘内病院小児科の吉田先生が地域の小学校のPTA等に出向き、メディアの影響などについて講演を行った。私自信は鶴岡の保育園に40年勤め、現在は退職したが、その関係もあり市の7か月健診の健康相談で親子にふれあい遊びなどを紹介したり、幼児の部門でメディアの影響についてお話ししながら、心と体が健やかに成長できるよう実践している。

○委員：

資料4の2のとおり、平成25年から令和元年頃までは平穏無事にきていたが、コロナ禍とウクライナロシア情勢で本当に大変な事態に発生しており、「いきいき健康鶴岡21」の計画も大分変更しなければいけないと思っている1人である。私は市の町内会長会連合会の会長もしており、建物で言うと1階から90階までの人々が居るとしたら、低階層の

人たちは相当に大変な状態であり、戦後すぐのような食生活をしないと、年金だけ生活している人たちは大変だと思っている。その辺を考えていかないと、自殺者が増えるというような大変な状態になっていくと思われるため、そうならないようにするためにはどうすれば良いかを考えていきたいと思っている。

○委員：

今年度の食改の活動状況について、会員研修は今年度開催回数を増やし人数を調整し、前期後期合わせて30日で実施を予定している。できるだけ会員が希望する日程で開催できるよう日程調整を行い、6月1日から6月17日までの7日間で95人の会員が参加している。食改養成講座については、現在18名中5名が申込みをしている状況である。県食改普及事業については、今回は男性のための料理教室を鶴岡地区と羽黒地区で予定している。全世代に広めよう健康事業延伸プロジェクトについては、藤島地区、櫛引地区、朝日地区、温海地区で開催を予定している。活動を行う際は、感染症対策を徹底し事業を実施していきたい。

○委員：

農協として「いきいき健康鶴岡21」との直接的な関わりはないが、職場として健康診断は毎年実施している。その中で、近年30代の若い職員ががんに罹患したことから、がん検診の項目を1つ追加した。また、職員の中で心の病気になる者もいるため、気づきや鬱への対応という事で、職員研修を行っている。

○委員：

商工会議所の事例としては、商工業者が鶴岡市内で4000程あり、会員事業所が1800弱あり、そちらに情報提供と会報、現在はLINEやHPでの情報提供も行っている。会員事業所の福利厚生もあり、協会事業と会員事業所の厚生等の事業を行っている。コロナで事業所が大変なので、コロナ支援の補助金等で相談や問い合わせが多い中、商工会議所としてしっかり対応しながら応援していきたい。

○委員：

庄内労働基準監督署では、労働安全衛生法に基づき、会社の労働者を対象にした職域の定期健康診断の実施状況の確認を行っている。昨年実施した職域の健康診断で、何らかの異常の所見があった方の割合が、全国平均で58%である中で、山形県内平均で10%ほど高い68%、庄内地区に限定すると70%超えと更に高くなり、有所見者への何らかの対策が必要だと考えている。監督署として健康診断の異常の所見があった方に対しては、医師の意見を聞いたうえで労働時間の短縮等負担を軽減するような措置を講じていただくよう、企業・会社をお願いしているが、有所見率そのものの改善というところが課題であると感じている。職域の皆さんと今後どのようなお願いができるか考えていたところで、保健指導の勧奨などを企業に対しお願いしていく事で運動、食生活の改善に繋がり、それが有所見率の改善に繋がるというような取組みは非常に重要であると感じている。

○委員：

子供の時からの健康や保健活動を身近に感じてもらい、学ぶという事が、学校として大切だと感じた。ただ、学校の先生だと学習や生活指導・特別支援の対応、行事、感染対策等日々忙しくしている状況で、子供達に保険を身近に感じてもらうとすれば、保健師や保健に関わる専門の方々からの出前授業やそういった指導があると、学校としても有り難く、

子供達も学校外の方から話を聞くと、いつもとは違う新鮮な気持ちで興味深く聞いているようなところがあるので、学校と保健の所が連携しながら保健活動を推進していけたら一番良いのではないかと考えている。個人の感想として、若者としては今事務局から説明があったような内容は身近になく、興味のある人だけが参加したり視聴したりするようなどころだと思い、どうしたら鶴岡市民が健康に目を向けるのかを考えた時に、例えば流行させることが近道なのかなど。若者が行くような飲食店やお店と連携したり、SNS、インスタ、TIKTOK、YOUTUBEなどは子供達も利用しており、直ぐに何か面白いことがあると流行するというがあるので、こういったものを味方に付けたような取組みをすると、若者にも身近に感じてもらえるのではないかと。

○委員：

薬剤師は健康に関して日々それを生業として触れてきている。保健行動計画では、各取組みに関して認識を深めるために、イベントがあればそこで来た人に働きかけて実施していることはあるようだが、縦割りの年代で見ると、長谷川委員がやっていたらのように、比較的高齢の方たちを対象にすればその高齢の方たちの食事、運動、歯の事などここで見ることはできるし、学生であれば、保健の先生から色々な情報を発信し、その年代の健康情報を発信することはできるが、大学生から働く年代になると、縦割りで属性が来ていない様に感じる。何かイベントに行くと、歯の事、食事の事、健診のついでに他の事を聞く事はできるが、結局働いていると、自分の健康診断の結果を見てのアドバイスを受けるぐらいがせいぜいなので、その年代に合った特徴を得て、運動や食事のアドバイスなどを一括して年代別にするスタンダードなものが何かあれば良いのではないかと。また、自殺予防に関して、私も自殺予防の委員会に一時入っていた事があり、色々な関係先の方、自殺対策を考える人材の育成等重要な仕事だと思ふ。他に各業界をフォローできるような人達が集まって、その中で宿題を出されて考えてきたりとか、大変な仕事だという認識がある。その中で近年、栄養や運動についての情報が欠けているような感じがしたので、自殺予防のところにも、食事などの情報を盛り込んではどうか。

○委員：

からだ館というのは市民の皆さんが病気や治療、健康の事を調べたい、勉強したい、誰かと一緒に出会いたいと思った時に、いつでもどなたでも利用できるという場所。致道ライブラリーの一角を拠点にしており、本が沢山置いてあったり相談員が居たり、楽しく学べる勉強会を開催したり、癌を経験した方や難病の方たちが集まっておしゃべりをしたりすることが出来るようなサロンを設けている。コロナ禍で感染対策に気を付けながら色々な勉強会やサロンを実施してきたが、今日は、心の健康のセルフケアに関する話をさせていただきたい。2021年の年明けから始まったもので、コロナで癌の患者で来ている方の心が何かザワザワしてしまい、落ち込んでしまったりとかすると、気持ちを保てる方法が何かないと相談されたのがきっかけとなった。私どものキャンパスには社会人の大学院生が何人か移住し勉強しているが、その内の1人に臨床心理士公認心理士という資格を持っている者がおり、認知行動療法、物事のとらえ方や自分の考え方の癖・傾向みたいなものに気付いて、ネガティブ思考からポジティブ思考に変えていく、という事をセルフケアにも使えるので、市民の皆さんが自分の考え方に気付けるよう、一緒にワークショップを企画して、全部で14回学ぶ、という会を実施した。その後大学院生は修士課程が修了、

卒業して鶴岡を離れることになったが、残された学んだ人達が、これを自分達だけの学びにしておくのは勿体ない、周りの人達や地域に広げたいと言い出し、今はその方たちが中心になり、これまでの学びに関連したすごろくを作成している。秋ごろに完成する予定となっており、出来上がったら介護予防の通いの場など広く色々なところで皆さんに活用してもらいたい。最終的なゴールは専門家が教えるではなく、市民の方たちがやりたいと思って参加したり、学びたいと思って学んだ人が地域に広めていく事が理想だと思うので、そういうところを目指してやっていきたい。

○委員：

コロナ禍での庄内保健所の「健康日本21」の活動状況について、山形県では「健康やまがた安心プラン」という名称で県の施策としてコロナ対策の合間を縫って実施してきた。特に力を入れたのは妊婦や子育て世代の喫煙対策と自殺予防、庄内地域ではもう1つ地域活動として食支援の活動で医療関係者が行っているが、近い将来は他職種か板前さんのような職種を交えた活動をしていきたいと考えている。コロナの活動が中心となっているが、コロナについては恐らく今年中に2類から5類に変わり、従来のインフルエンザと同じように医療関係者が対応していく形になる。コロナ対策においては、病院と診療所、医師会、行政も含めて一緒に勉強しながら対応しないと太刀打ちできない状況となるので、自分の仕事としては地域全体の連携を取ることにとなる。例えば地域の弱い人が重症化したりする時には、必ず医療が入院できる体制を作ることになるが、他の地域と違うのは、陽性者として発生届が出た次の段階でもう医師が何でも相談できる体制を作るという形。皆自宅療養が殆どだが、ほぼ全員医療機関が電話診療している体制になっている。この体制は5類に変わっても通常の診療に直ぐに繋げるという体制になっており、また、詳細な情報提供により誰がどういう経路・状況で感染したかが鶴岡でも把握できるような体制や連携の強化が出来ている状況にあり、これは今後の健康、まちづくりに応用できるような体制となっている。

最後に自宅で最後を迎えることができ本当に良かったと家族が納得できることが最終的な地域づくりの目標と思っており、そこには色んな人たちの連携支援、共同が必要であるが、そういった視点で「健康日本21」を見ると非常に違和感がある。何故違和感があるのかというと、健康とは、身体的、精神的、社会的に健康な状態であるとのことだが、ただ、健康寿命の延伸について、「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」を見ると、健康寿命は延びたが、平均寿命と健康寿命との差である不健康寿命も結局は延びることとなる。山形県は短くなっているが、全国的に見ると延びているところもある。問題は不健康年齢が女性で12年、男性で8年、不健康な状況がこの間続くということで、結局そこに「健康日本21」は何も手を打っていないということ。今後2025年以降は約半数が高齢者になっていくが「健康日本21」はそこを見捨てるのかという話になる。あくまではもこれは健康寿命を延ばす、対象者がかなり前の時代のところなので、今後2024年に改定されると言われているが、その間にはこういった不健康と呼ばれていた人たちの、中間に当たる時期の対応を計画に入れていかなければならないのではないかと考えている。例えば食支援と運動のフレイル予防の2つがある中で、基本的には記載されているロコモ予防と高齢者に対する食支援の考え方はがらっと変わるが、運動に関しても社会活動が非常に重要になってきて、社会活動プラス運動、社会活動プラス栄養のような事業をど

んどん入れていかないと効果はない。次はそういった意識を入れたものを作っていかなければならないと思っている。2024年には大きな改革がなされると思うが、これば医療報酬、介護報酬の同時改定と医療計画、介護事業計画が全て2024年に改定されることと、まちづくりについての「いきいき健康つるおか21 保健行動計画」も含めた内容に全て齟齬があってはいけないということ。21世紀の新しい地域づくりをしていかないと町が持たないという話が2024年に起こる訳だが、今年から改定の準備をしなければならぬという事を念頭に置き、出来るだけ不健康寿命の人も、「いきいき健康つるおか21」でちゃんと対応する計画を作っていかなければおかしい。保健所としてもこれからそういった方向で動いてもらおうと思っている。

8. アドバイザーによる講評

コロナ禍で大変な状況での市の健康づくりの取組みについて感じたのは、こういう大変な中でも、例えばがん検診精密検査受診率が変わらなかったり上がっているものもあったり、また、受動喫煙のところでも両親の喫煙率が3歳児健診時だと大分上がってきてしまうものだが、それでもお母さんの喫煙率が大分下がってきたりとか、少しずつ成果も出ているので、コロナが少し落ち着いてきて、これから5年後は大分活動が変わると思うので、これをどう続けていくかは凄く大事だと思う。その中で1番印象的だったのは、子供の予防接種の率が急に上がっていること。アプリの母子モの活用が大きな改善に繋がったのだとすれば、是非評価してもらい、今後それをどうやって進めていくかということを考える場を作っていただければと思う。こころの健康づくりのところでも、LINEを活用したという事があり、これも鶴岡市のHPを見ると、複数の色んなNPOのLINEを使うということで、これは最近多く流行っているものだが、特に今回全国の自殺の増加の傾向を見ると、比較的若い世代も自殺者が多い世代となっていることから、そこにどうやって届けるのかを考えると、とても大事だと思う。市としてどうすれば皆に使用してもらえるのかを工夫し、次回お話しいただき、今後の対策を少しずつ考えていく事は大切だと思う。もう1つ新しい取組みで健康づくりの運動動画を市の公式HPに掲載したと記載があり、僕も検索してみたけどやっぱり見つかったが、中々探せなかった。動画自体はとても良いものであったため、これからの新しい時代で、今まで届かなかった人に市の健康づくりを届けるためには、こういった新しいツールをどう上手く皆さんに使っていただけるのかが1つの大事なテーマだと思う。私も先ほど鶴岡市のLINE登録を試みたが、残念ながら新型コロナはあるが、健康なまちづくりの事は載っていない。そういうところから入っていけるような工夫をしていくと、皆さんから色々な声が出てきたものを上手く市民の皆さんに届けることができるのではないか。というのも、先ほどお話があったように、「いきいき健康つるおか21」の計画が1年延長になったことで、来年は意識調査をすると思うが、蘆野先生からお話があったように方向自体が大きく変わる中で、意識調査で何を調べたら良いのかということ今年度少し評価していただいて、必要な事や新しい項目も入れて、この場の皆さんに新しい計画を作る時に参考になるような情報を、是非今年の後半にはとっていただければと思う。もう1点、今国全体では、少し年齢が高い層に関しては、保険と介護予防の一体化がキーワードになっている。これは正に、最後は地域で病気を持っても過ごせるという事で、僕達も今みらい健康調査で市民の皆さんから調査に協力してもらっているが、1番

最近のデータでは、60歳になると高血圧等何か1つ病気を持っている人が20%、1つか2つ持っている人が50%、3つまで数えると70%の人が何らかのリスクを持っており、完全に健康に暮らしているというよりは、色々な状況を抱えながら皆さんが暮らしているという中で、健康づくりをどうやっていくのかという事を次の計画で考える時代に来ていると思う。今日各団体の取組みを伺い、それをどうやって市として次の施策に繋げることが大事だと思うので、今日のデータを使いながら新しい計画を立てるための準備を行い、それを今年度第2回目の会議の中で少し話してもらえれば、ディスカッションが広がるのではないかと。

9. その他

なし

10. 閉会（事務局）

本日は貴重なご意見を頂きありがとうございました。

それではこれもちまして、第1回鶴岡市健康なまちづくり推進協議会を閉会いたします。

皆さま、どうもありがとうございました。